

# 審査員講評

表彰式における審査委員の講評を誌面の都合上要約してご紹介します。

## 柴田寛二

山下設計社長



提案部門では、価値観や生活が変化していく時代における公園とガラスをどう結びつけるかというテーマが、多くの方の挑戦につながった。廃棄びんをクリスタルクレイで固定して壁や床面を作る志村案は、極めて素朴だがユーモアさえ感じられ、かつ現実的でもあるということで評価を得た。一方で、コンビニという場で、ガラス容器をモノや情報の媒体に使いながら展開する古澤・秋山案のように、バーチャル公園的な案もあった。おおげさに言うと、現代の公園の可能性を問い掛けたコンペになったと思う。

作品例部門では、木とガラスブロックを組み合わせた二井案、コンクリートブロックとの組み合わせの古谷案など、ガラスブロックの本質を生かしながら、他の材料と合成することによって柔かい表情をつくり出していたのが印象的であった。大きな成果を得られたと思う。

## 宮崎 浩

プランツアソシエイツ代表



ガラスブロックは、面として大きく使うことでスケール感も出せる素材だが、今年の作品ではヒューマンな暖かみのある使い方が目立った。作品例部門で、木の間に一列にガラスブロックを埋め込んだ二井案、既成のコンクリートブロックにあっけらかんとガラスブロックをはめこんだ感のある古谷案は、その代表例といえる。

提案部門金賞の古澤・秋山案は、「コンビニと公園の関係」という視点で勝負した作品だと思う。志村案のアイデア自体は目新しいものではないが、詩的な雰囲気と造形力を感じた。

このコンペの面白さは、知的なゲームという面を持つ提案部門と、素材そのものを使って建築空間を作り出す作品例部門という、対比的な二部門が同時に行われる点だと思う。知的なゲームを勝ち残った方たちにも、いずれ「ものを作る」ことに直面し、その大変さと楽しさを覚えていただきたいと願っている。

## 渡辺真理

法政大学教授  
設計組織 ADH 代表



独創性を持つ作品、素材を美しく使った作品、という2つの基準を同時に満たすという視点から、作品例部門の受賞作品はすぐに浮かび上がってきた。よく使われる素材から新しく何かを作り出すというのは非常に難しいと思うが、それを小さな作品でうまく表現した点が評価されたと思う。提案部門では意見が割れたが、ガラスブロック等の具体的な素材と公園を組み合わせることが、実は意外に難しいというのも理由の一つだった。小さなガラスの器に入れたポータブルな公園という山本・河西案は非常に面白かったが、必ずしもガラスでなくてもよいのではないかという疑問が残る。その点ではクリスタルクレイに着目した志村案はよいと思ったが、公園の一部の提案でしかないという感じもある。金賞から佳作まで作品レベルの高さはほとんど変わらず、ほんのわずかな違いがこのような結果になったと理解していただければよいのではないか。

## 戸谷文隆

日本電気硝子 専務取締役  
建材事業本部長



空間デザインコンペティションも今回で8回目を数えることができました。これもひとえに皆様方のお力添えのおかげと感謝しております。

作品例部門につきましては、ガラスブロックと他の建築材料の調和を見事に表現された作品が、金賞と銀賞を受賞されました。一方提案部門では、今回も若い方々の優れたアイデアをたくさんいただきました。金賞の古澤・秋山案は、公園とは何かということ問い掛ける作品で、その卓抜な発想が受賞につながったと思います。

空間デザインコンペティションは、作品例部門と提案部門の二つからなっている点に、大変ご注目いただいております。これからもできる限り続けていきたいと思っております。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。